|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | | | |
| **学校経営推進費　評価報告書（最終）** | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| **１．事業計画の概要** | | | | | | | | | | | | | | | | | | |  |  |  |
| **学校名** | | | | 大阪府立東淀川高等学校　全日制の課程 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| **取り組む課題** | | | | 生徒の学力の充実 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| **評価指標** | | | | ・学校教育自己診断における「授業満足度」及び「授業で発表する機会」の割合向上  ・授業アンケートにおける「授業に興味・関心をもつことができた」  　「授業を受けて知識や技能が身に付いた」の割合向上  ・外部学力調査における学習習慣の定着及び学力結果の向上 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| **計画名** | | | | 「輝け！川高生－生徒が学びの主役になれる授業を」 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| **２．事業目標及び本年度の取組み** | | | | | | | | | | | | | | | | | | |  |  |  |
| **学校経営計画の**  **中期的目標** | | | | １　確かな学力の育成  （１） 生徒の(a)基礎・基本となる学力の定着ならびに「学ぶ意欲」や、生徒一人ひとりが自らの考えを的確に伝え、相手の意見も傾聴できる(b)コミュニケーション力を育成する。  イ　 生徒の主体的な学習態度を育成するため現状を把握し、(b)「考える、まとめる、発表する」等の力を高める授業を実施する。  ３　生徒の自己効力感と人権意識を向上   1. ウ　学校行事（体育祭や文化祭等）や学年行事、ホームルーム活動など、(b)生徒が主体的に企画・立案、運営し、達成感や満足感の伴う取組みの充実   ４　学校全体の課題を解決するため、組織的活動の徹底と教職員力を向上  （２） (c)「中国等帰国生徒及び外国人生徒入学者選抜」（＊）の実施を見据え、入学生徒の受け入れ態勢や指導体制の確立  （＊）「日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒入学者選抜」に改称  （４） (c)配慮を要する生徒への共通理解を図り、カウンセリング機能を活かした適切な指導 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| **事業目標** | | | | 「生徒が学びの主役になれる授業」づくりのために   * 本校生徒の特徴として、入学直後は「勉強する意欲」は低くはないものの、学習習慣と学力結果を維持・向上させることが課題になっている。 * 平成27年度、学力向上チームにおいて、本校生徒には「達成感」「甘えさせない」「参加型」学習が必要であるとの取りまとめを行い、全校で共有した。 * 本校では従来から電子黒板やプロジェクターを活用する授業を行ってきたものの、台数や場所が限られており、生徒自らが十分に活用するまでには至らなかった。 * ICT機器の全普通教室等ヘの整備と活用を通して、「生徒の学力定着と学ぶ意欲の向上」「コミュニケーション力の育成」「外国にルーツのある生徒、配慮を要する生徒へのサポート」などを行う。  1. 生徒の学力定着と学ぶ意欲の向上   生徒の知識定着、理解の深化及び学ぶ意欲の向上のため、教材の視覚化を行い、わかりやすくかつ内容を深めた授業を実施する。また、生徒の様子を確認しながら的確に指示することで、学習意欲を高める。   1. コミュニケーション力の育成   生徒が主体的に学習するとともに、自分の考えをまとめ、発表する力を育成するため、授業や総合的な学習の時間等において、調べ学習やプレゼンテーション等を実施する。   1. 外国にルーツのある生徒、配慮を要する生徒へのサポート   教材の視覚化などの工夫により、外国にルーツがある生徒の学校生活や学習活動への理解を促進する。障がいのある生徒等に対して、個々に応じてきめ細かい指導を行い、学校生活や学習活動への理解を促進する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| **整備した**  **設備・物品** | | | | 短焦点プロジェクター（無線LAN使用可）   * 11台設置：平成28年11月23日、６台追加設置：平成29年１月末、２台追加設置：平成29年３月末 * 平成29年度末までに全普通教室（30教室）に設置 * マグネットスクリーン・タブレットPC（カメラ機能搭載）については学校管理費等で購入 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| **取組みの**  **主担・実施者** | | | | 主　担：　学力向上チーム及びICT機器を活用する授業の担当者等  実施者：　全教職員の７割程度の活用を予定 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| **本年度の**  **取組内容** | | | | (a) 固定式プロジェクターを用い、教材の視覚化などの工夫をした授業の実施を拡大   * 実施科目（国語・地歴公民・数学・理科・保健体育・家庭・英語） * 授業での活用総時間数　1962時間   (b) 授業や総合的な学習の時間における生徒のICT機器の活用を実施   * １年：夏休み研究発表会　クラスで発表に活用→学年全体の発表を実施 * ２年：総合的な学習の時間・ＨＲで活用   (b) 生徒による下級生へのコース等のプレゼンテーションの実施を検討   * １年生夏休み研究発表会の取組みの成果を次年度以後に継承（予定）   (c) ユニバーサルデザインに基づいた授業の実施   * 「日本語指導が必要な生徒選抜」による入学生徒向けに映像・図の活用、外国語←→日本語の切替えを実施 * 実施科目（世界史・国語（日本語）・保健・化学基礎）   【取組み充実に向けた流れ】  職員研修（機器の使用．５月）及び研究授業（６月）  → 教科での教材開発、蓄積及び協議（９月～）  → 学校教育自己診断等に基づき分析・評価（１・２月）  → 今後も継続して取り組む中での、次年度の活用方法について検討（２・３月） | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| **成果の検証方法**  **と評価指標** | | | | 1. 学校教育自己診断における「授業満足度」75％（H27.63％　H28.67％　H29.71％）   授業アンケートにおける  「授業に興味・関心をもつことができた」2.97（H27.2.88　H28.2.91　H29.2.94）  「授業を受けて知識や技能が身に付いた」3.03（H27.2.94　H28.2.97　H29.3.00）   1. 学校教育自己診断における   「授業で発表する機会がある」55％（H27.42％　H28.46％　H29.50％）  外部学力調査（進路マップ）において  　　「学力結果」　３年次C２　55％  　　気持ち・生活アンケート結果」１年９月  「頑張って成績を伸ばしたい」41％（H27.32％　H28.35％　H29.38％）  「自宅学習している」48％（H27.39％　H28.42％　H29.45％） | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| **自己評価** | | | | 1. 学校教育自己診断における「授業満足度」57％（△）（H27.63％　H28.61％　H29.62％）   授業アンケートにおける  「授業に興味・関心をもつことができた」3.10（◎）（H27.2.88　H28.2.97　H29.3.06）  「授業を受けて知識や技能が身に付いた」3.14（◎）（H27.2.94　H28.3.01）H29.3.09）   1. 学校教育自己診断における   「授業で発表する機会がある」59％（◎）（H27.42％　H28.53％　H29.53％）  外部学力調査（進路マップ）において  　　「学力結果」１・２年９月結果を次年度４月に維持  　　　　　　 １年９月C２　→　２年４月C２（◎）（63期生）  　　　　　　 ２年９月D１　→　３年４月D１（△）（62期生）  　　気持ち・生活アンケート結果  　　　１年９月「頑張って成績を伸ばしたい」  　　　　　　　　36％（64期生）（◎）（H27.32％　H28.24％　H29.28％）  　　　　　　　「自宅学習していない」  　　　　　　　　27％（64期生）（◎）（H27.39％　H28.42％　H29.37％）  【コメント】  （１）３年間で評価が向上したもの   * 学校教育自己診断の「授業に興味・関心」・「知識・技能が身に付いた」 * 学校教育自己診断（生徒向け）の「授業で発表する機会」 * 気持ち・生活アンケート結果「成績を伸ばしたい」、「自宅学習していない」生徒の減少   （２）３年間で評価が十分向上しなかったもの   * 学校教育自己診断（生徒向け）の授業満足度（低下） * 外部学力調査（進路マップ）における学力結果   　　　　（１年から２年生では結果を維持、２年次に学力結果が低下）  （３）まとめ   * プロジェクターの活用機会が増加（H28のべ103件（実試用期間２か月）→H30のべ3830件） * 発表機会の充実など、教員の授業の在り方が変化し、生徒の授業に対する評価が大きく向上 * 授業満足度、学力結果には十分反映されていないことが課題 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| **事業のまとめ** | | | | (a) 固定式プロジェクターを用い、教材の視覚化などの工夫をした授業の実施を拡大  (b) 授業や総合的な学習の時間における生徒のICT機器の活用の実施を拡大（公開授業や研究協議を実施）  (b) 生徒による下級生へのコース等のプレゼンテーションを実施  (c) ユニバーサルデザインに基づいた授業の実施を拡大  【取組み充実に向けた流れ】  　職員研修（機器の使用．５月）及び研究授業（６月）  →教科での教材開発、蓄積及び協議（９月～）  　→学校教育自己診断等に基づき分析・評価（１・２月）  →今後も継続して取り組む中での、次年度の活用方法について検討（１・２月）  【コメント】  （１）成果   * 教材の視覚化など、工夫した授業の実施の拡大 * ４月のオリエンテーションでのていねいな説明、及び公開授業週間において「プロジェクターを活用した授業」の公開推進（H29前期）等により機器活用の実施を拡大 * 「日本語指導が必要な生徒選抜」による入学生の授業での活用など、生徒の理解に応じた活用を推進   （３）課題   * プレゼンテーションの推進については、新学習指導要領等に係る取組みと併せて、一層の充実を図る。 | | | | | | | | | | | | | | | | | |